

内海大橋



アメニティロード 沼隈横田港線



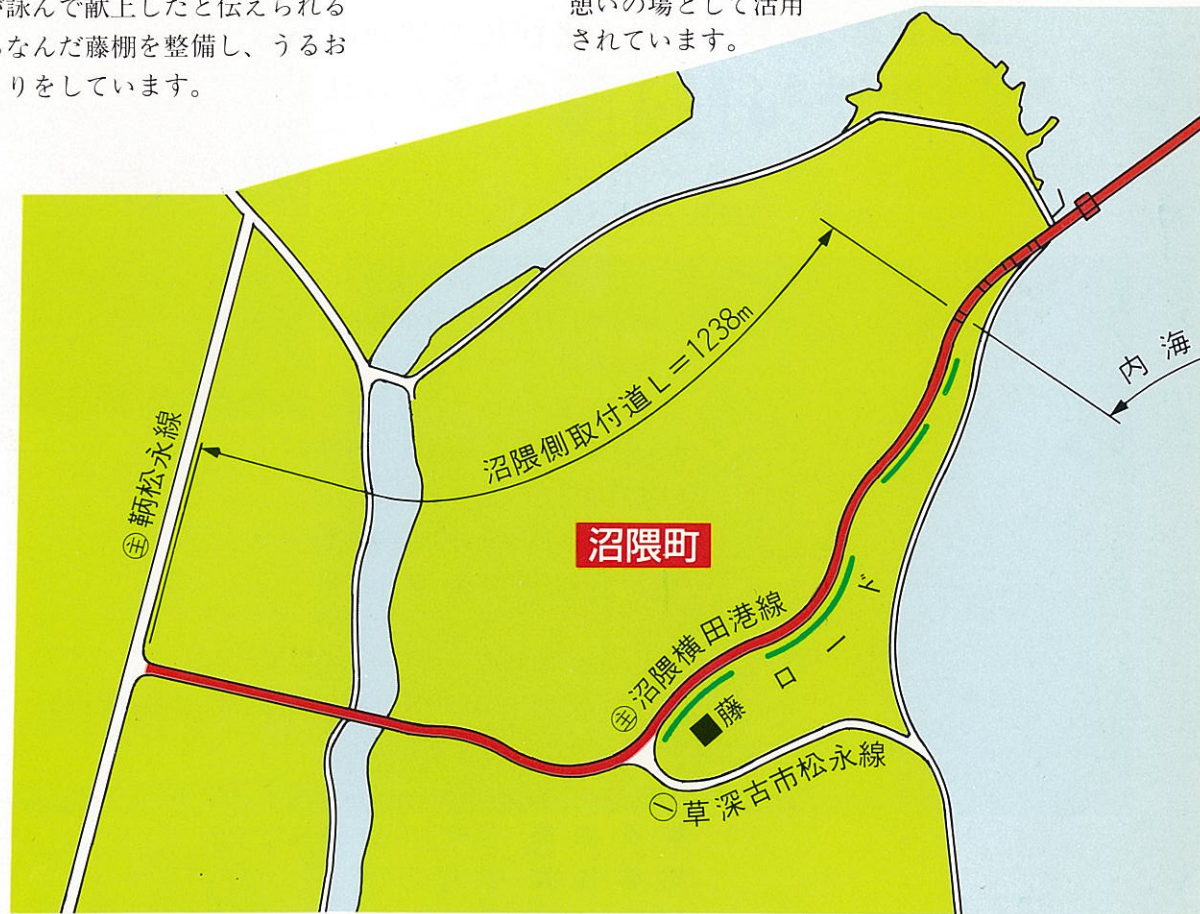
■ 藤ロード

1180年高倉上皇が敷名の泊に停泊した際に「千とせ経む 君がよはいに 藤波の松の枝にも かかりぬるかな」と大納言隆季が詠んで献上したと伝えられる「千年藤」にちなんだ藤棚を整備し、うらおいのある道づくりをしています。



■ 敷名番所跡伝承地

敷名は古くから港があり、「平家物語」にもその名が現れ、海上交通の要所として橋脚付近に関所が置かれていたと伝えられています。このため、碑文を整備し後世に伝えるとともに憩いの場として活用されています。



■ 高欄

光によって浮かびあがる波模様は周囲の景観と調和しています。



■ デザインパネル

内海町、沼隈町にちなんだ植物をデザインしたパネルにより高いフェンスの圧迫感をやわらげています。



■ 照明灯

海鳥をイメージした装飾をつけ人の目に優しいデザインとしています。



■ 沼隈側入口



■ 親柱

アーチ橋のイメージを受け、波頭を連想させるゆったりとした形状にしています。

■ カラー舗装

この地方に多い、風化花崗岩「マサ土」色のカラー舗装により自然な土の上を歩く感触を出しています。



■ 椰子の木ロード

ワシントンヤシ並木を整備し陽光あふれる南国のイメージをつくりだしています。

内海大橋の概要

内海町は、広島県の南東部、沼隈半島の南西約0.5kmの海上に東西に横たわる田島、横島の二つの島からなっており、気候は温暖で風光明媚な自然環境に恵まれたところです。

しかし、離島であることから、人口の流出と高齢化、地場産業の伸び悩みなど多くの課題をかかえています。

こうした状況を打開するためには、まず、安定した交通の確保を急ぐ必要があります。内海大橋の建設に着手したものです。

この橋の開通により、本土と島の一体化が実現し、島民福祉の向上、地域産業の振興、島民の定住化及び福山市を中心とした広域市町村圏の発展に大きく寄与するものと考えられます。

建設のあゆみ

昭和44年11月	沼隈内海架橋促進期成同盟会設立
昭和45年度	県単独費により調査開始
昭和54年度	橋梁整備事業として採択
昭和56年3月	取付道路工事着手
昭和57年7月	下部工起工式
昭和61年3月	上部工工事着手
平成元年10月	完成・供用開始

工事概要

路線名	主要地方道 沼隈横田港線
区間	広島県沼隈郡沼隈町草深～内海町宮脇
道路規格	第3種第4級
延長	3,390m
事業期間	昭和54年度～平成元年度
総事業費	約107億円
(内海大橋部)	
橋格	1等橋
橋長	832m (107+70+220+175+185+75)
幅員	全幅8.5m (車道部6.5m、歩道部2.0m)
上部工形式	ニールセンローゼ桁2連、3径間連続鈹桁 3径間連続箱桁、単純合成箱桁2連
下部工形式	I型断面張出式橋脚(SRC)、I型断面柱式橋脚(SRC) 張出式橋脚、逆T式橋台
基礎工形式	多柱式基礎、直接基礎
(取付道路部)	
延長	2,558m (沼隈町側1,238m、内海町側1,320m)
幅員	全幅8.75m (車道部6.75m、歩道部2.0m)

工事のあゆみ



■下部工工事 P5, P6, P7 橋脚躯体施工中
(昭和60年8月)

■上部工工事

220mのニールセンローゼ桁の大型クレーン船による海上一括架設 (平成元年2月)



■床版工事

220mニールセンローゼ桁の床版鉄筋工
エポキシ樹脂塗装鉄筋使用
(平成元年6月)

内海大橋周辺案内図



広島県土木建築部道路建設課

〒730 広島市中区基町10番52号 ☎(082) 228-2111(代)

広島県福山土木建築事務所

〒720 広島県福山市三吉町1丁目1番地 ☎(0849) 21-1311(代)